



年が改まったがノームはいっこうに大儲けしそうもない。困った困ったと言いながら毎日自転車で走りまわっている。このあいだも朝から松戸へ走って作文集の編集をやってみんなで飲んで騒いで夜中にまた千住へひとっばしり、原稿を届けて帰宅。元気だけが頼りだが昨年末の変に凍った山にテントをかついで行って腰を痛めた。やっとなおりつつあるが急な無理はそろそろ気をつけたほうが良いかも知れない。といいつつまた徹夜をやってしまった。やはりバカは死ななきゃなおらない。

バカといえば自転車でやっと日本に帰ってきた二人の友人と久しぶりに会って飲んだ。3年8ヶ月、4万キロ、二人とも出発前と少しも変わらず明るかった。「どうだい、手放し運転は出来るようになったかい。」「だめなんですー、右手は一瞬だけなら、さっと出来るんですけどそれだけでー。」と情けない答えだ。教授は「なんだか僕も行ける気がしてきたなー。」と笑った。ネパールでカラパタル5545mを登って食欲さえ落ちなかったという女性も元気良く「着替えなんて10日やそこらはぜんぜんしなくていいのだー。」などと上海の女の子を捕まえて話している。ネパールの娘さんが料理を作ってくれているわきで「私だって来年は咲いてみせる。」と密かに宣言する姉御。脳天気なおじさんも向こうでホタルイカの薫製をあぶりながら顔一杯の笑い皺だ。「これじゃあコスプレ大会どころじゃないなー。」とぼやく私。時間はすぐに過ぎていってしまう。バカばっかしだが、今、良い時間を一緒に持てる友人達がいてくれる事に感謝しなければいけないー。

そろそろ、今年の専門誌の連載ものを形にしなければいけなくなってきた。仕事の幅が広く同じことをすることが少ないから、いつもそのとりかかりに勇気が必要になってくる。後から、出来ませんでしたと言うことは出来ないから、「出来ますか。」と聞かれるときが一番緊張する。そんなときにいつも思うのは今まで、始めて終わらなかった仕事はなかったという自信であり、事実です。初めから成算があるわけではなく今までの数多くの事実の積み重ねの彼方にぼんやり見える方向を信じ、培ってきた自分の人間性を信じ、サポートしてくれている人間達を信じるだけです。色々な問題も多いけれども前へ進みながら、旅は続けながら、解決し造り上げていく、そういうやり方で今までもこれからもやっていくのだろうと思っています。今年もぼやきながらも、楽しく、元気にやっていこうと思っています。

ノームはこのごろ時間がとれるようになりました。そのすきにウィンドウズも使い初めています。道具は何でも使えるようにしておきたいものです。

<http://www.interq.or.jp/japan/gnomes/gnomes1>
TEL/FAX 03-5600-0195 高村 哲 GnomesJpn@aol.com